日経平均株価
２万８０４１円４８銭
▲２５８円５５銭（前日比）
ＴＯＰＩＸ
２００３．５０
▲２０．１８（前日比）

株式市場新聞
www.marketpress.jp
2023
4/3
月曜日
発行元　株式会社 株式市場新聞社
〒541-0058
大阪市中央区南久宝寺町３丁目２-７
TEL 06-6105-1904

2月期決算発表始まる

百貨店各社や安川電など注目

名実ともに新年度に入り、2月期企業から通期決算発表が始った。小売りセクターが多く占める2月期企業はこの数年、新型コロナ感染拡大の影響を受けてきたが、感染拡大がピークアウトする中で前２３年2月期は回復基調となる企業が増えている。今年5月からは新型コロナの感染症法上の分類が「2類相当」から、季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下さげられ、コロナ禍以前の状態に本格的に戻るなか、業績が回復から拡大に向かう企業を選別することになろう。

東宝は大型タイトルに期待

小売り大手では**イオン**（８２６７）が４月上旬に決算発表を行うが、傘下の**イオン九州**（２６５３）が３月２２日付で前期予想を上方修正を行っている。行動制限の緩和や「トップバリュ」の展開強化などで価格訴求を推進した効果で食品が伸びており、原料高が深刻化するなかで値ごろ感ある価格を打ち出せる小売は好調な決算が期待できそうだ。

高島屋難波店

５類への移行後に入国制限の完全撤廃が予想されるが、それによるインバウンド消費拡大の恩恵を受けるのが百貨店。**Ｊ．フロントリテイリング**（３０８６）は前期につき利益は下方修正ながら売上高は上方修正しており、４月１１日の今期予想が注目される。１４日発表の**高島屋**（８２３３）や発表日は未定ながら**近鉄百貨店**（８２４４）なども期待できそうだ。

小売り以外では、１３日発表の**東宝**（９６０２）は宮崎駿監督の久々の新作「君たちはどう生きるか」が今夏公開が予定されており、大型タイトル効果が今期予想にどう反映されるか期待したい。

そして３月期決算企業の動向を占う上では７日発表の**安川電機**（６５０６）が要注目となろう。前期は３２・４％の大幅増益で着地したが、今期もＥＶ関連など豊富な受注残で更なる業績拡大が予想される。

日経平均の日足チャート

3月第4週の動意銘柄

マクセルがストップ高

全固体電池を世界初量産

マクセルの日足チャート

週明け20日、**マクセル**（6810）がストップ高。日本経済新聞電子版が「産業機械向けに大容量の全固体電池を世界で初めて量産する」と報じた。耐用年数が10年程度と長く熱にも強い。まず今夏に工場のロボット用に生産を始めるとしており、早期生産拡大と収益貢献を期待した買いを集めた。

豊田織エンジン認証不正

豊田自動織機（6201）が急落。フォークリフト用エンジン認証での法規違反があり、国内出荷を停止すると発表したことを受け、信用失墜と業績への影響を懸念された。ディーゼルエンジンで経年劣化による排出ガスの規制値超過と劣化耐久試験の手順・方法違反、ガソリンエンジンは劣化耐久試験の手順・方法違反があり、ディーゼルエンジン2機種とガソリンエンジン1機種の計3機種を搭載するフォークリフトの出荷停止する。

LeTech増額で黒字化

LeTech（3497）がストップ高。23年7月期の業績予想について、連結営業利益で10億1300万円から13億3000万円（前期32億3200万円の赤字）へ上方修正した。保有するホテル・民泊物件の賃貸収支が改善し大幅に黒字転換する。

HOUSEI寿命予測特許

休日明け2日、**HOUSEI**（5035）がストップ高。機器の寿命予測に関する特許を取得した発表したことを好感した買いを集めた。機器または機器を構成する部品の劣化度、新鮮度を機械学習を利用して予測する技術で、予定より早く壊れそうなものを交換する「パターン処理」を実現させるという。

新光電工下方修正

新光電気工業（6967）が大幅続落。23年3月期の業績予想について、連結売上高で3220億円から2830億円（前期比4・1％増）へ、営業利益で930億円から750億円（同5・1％増）へ下方修正したことが嫌気された。フリップチップタイプパッケージは、パソコン向けに加え、サーバー向けのパッケージ需要減退の影響を大きく受けている。

公開価格やや上回る

SHINKOの初値

SHINKO（7120）が東証スタンダード市場に新規上場、公開価格2200円をやや上回る2250円で初値が生まれた。同社はIT機器等の保守・販売と人材派遣を行う。

レントラクス配当引上げ

レントラックス（6045）が大幅反発。23年3月期の期末一括配当予想を111円から211円（前期末10円）に引き上げた。23年3月期に創業以来最高の取扱高を計上する見込みとなったことから、記念配当100円を上乗せる。併せて発表した2月の取扱高が前年同月比67・2％増の23億7100円と大幅に伸びたことも好感された。

正直じいさんの株で大判小判

堅調のなか買い場探る

前週の東京市場は大幅に続伸しました。日経平均は前週末比656円高です。欧米の金融システム不安が一旦収束に向い始めたことで買戻しが優勢になりました。週明けから29日まで3日続伸、30日は反落ながら権利落ち分の約250円を考慮すると実質はプラスで週末31日は米国株高をフォローに2万8000円台を回復しています。25日線を明確に上回り日足が陽転しており、3月16日の2万7000円割れで当面の底が入ったかたちになりました。週明けは新年度相場入りで需給状況は良く、金融不安が実体経済に及ぼす影響が懸念され締めへの警戒感なども後退しており、堅調な動きが期待できそうです。推奨銘柄にも動きが出始めましたが、引続き米長期金利と米ハイテク株の動きを確認しながら値幅が狙える中小型グロース株の買い場を探る考えです。**花咲 翁**

メガチプス大幅続伸

利益増額6%超自社株買い

メガチプス（6875）が大幅続伸。23年3月期の業績予想について、連結純利益で47億円から69億円（前期比7・4%減）へ修正した。新製品開発費用などが嵩んでいるが、為替差益が利益を押し上げた。同時に自己株式取得枠の設定を発表した。上限120万株（発行済株式総数に対する割合6・3%）または30億円で取得期間は3月23日～7月31日。

ゆうちょ銀は株売却報道

IBJ（6071）が急落。「IBJが他社の取引を妨害した疑いがあるとして、公正取引委員会が独占禁止法違反の疑いで同社に立ち入り検査した」と報じられたことが嫌気された。

久世は大幅上方修正

久世（2708）が6連騰。23年3月期の業績予想について、連結売上高で540億円から560億円（前期比27・7%増）、営業利益で3億5000万円から7億円（前期9億8000万円の赤字）へ大幅に上方修正した。政府から緊急事態宣言など行動制限は発出されず、年末にかけ客足は伸びた。

公開価格15%上回る

ハルメクHDの初値

ハルメクホールディングス（7119）が東証グロース市場に新規上場、公開価格1720円を15%上回る1981円で初値が生まれた。雑誌「ハルメク」、動画や講座の配信サービス「ハルメク365」の提供とカタログ、EC、店舗でオリジナル商品を開発・販売する。

東芝買収提案受け入れ

週末24日、東芝（6502）が急反発。日本産業パートナーズなどの連合による買収提案を受け入れ、TOBに賛同の意見を表明すると発表したことで、TOB価格4620円にサヤ寄せした。TOBは7月下旬をめどに実施、66・7%の応募が成立条件で、成立すれば上場廃止となる。

リブセンスが3連騰

転職会議にChatGPT連携

24日、**リブセンス**（6054）が3連騰。転職口コミサイト「転職会議」にOpenAIのChatGPTをAPI連携し、ChatGPTなどで使用されているAIであるGPT-3.5を活用した企業口コミの要約情報の提供を開始したと発表した。ChatGPTのAIを活用した要約文により、ユーザーは短時間で的確に、各企業の大まかな特長や社風のイメージを読み取ることができるようになる。

3月第5週の動意銘柄

テクノスマ大幅増配

週明け27日、**テクノスマート**（6246）はストップ高。23年3月期末配当を20円から55円へ大幅に引き上げ、年間配当を74円（前期35円）へ増配すると発表した。新中期計画で株主還元方針を変更、DOE5%以上を目安に自己資本の積み上げにより増配と自己株買いも行うとし。

新電元は下方修正

新電元工業（6844）が急反落。23年3月期の業績予想について、連結営業利益で48億円から33億円（同40.7%減）へ下方修正した。主力の二輪向け製品がアセアン・インドで堅調に推移、円安効果があったものの、半導体不足の長期化に伴う自動車市場の減産影響や中華圏の景気減速がデバイス製品や四輪向け電装製品の需要を押し下げた。

岡三還元方針と増配

岡三証券グループ（8609）がストップ高。新中期計画で来期から28年3月期までの株主還元方針として、PBRが1.0倍を超えるまで年間10億円以上の自己株式取得と総還元性向50%以上を目標とし、今期末一括配当に記念配当10円を上乗せ20円（前期末比5円増配）に増配することを好感した。

公開価格の2.9倍

アイビスの初値

前日に東証グロース市場に新規上場した**アイビス**（9343）は公開価格730円の2.9倍となる2121円で初値が生まれた。同社はモバイル事業（モバイルペイントアプリ「ibisPaint」の開発、サービス運営）、ソリューション事業（IT技術者派遣サービス、アプリ開発及びサーバ構築・移行・運用保守等の受託開発サービス）を行う。

公開価格の2.5倍

日本ナレッジの初値

前日に東証グロース市場に新規上場した**日本ナレッジ**（5252）は公開価格1500円の2.5倍となる3750円で初値が生まれた。同社はソフトウェアのテスト・品質検証サービス、またシステム受託開発や業務系のパッケージソフトウェアの開発・販売を行う。

公開価格の2.3倍

カバーの初値

カバー（5253）が東証グロース市場に新規上場、公開価格750円の2.3倍となる1750円で初値をつけた。VTuberのキャラクターIP開発とVTuberプロダクション「hololive production」を運営する。

転ばぬ先のテクニカル

期待高まる4月相場

3月の東京株式市場は続伸しました。月半ばにはSVB破綻やクレディ・スイスの経営不安という春の突風が吹きましたが、当局の素早い対策によりマーケットは落ち着きを取り戻してきました。

チャート形状を眺めて気づいたことは、SQに向けて急上昇した後、SQ通過後に急落した昨年6月と瓜二つだということ。昨年は6月9日の日経平均2万8389円高値の翌日に下放れて20日には2万5520円まで急落し、その後、下値固め期間を経て8月17日の2万9222円まで上昇していきました。

今回、同様の流れになるのなら、今月後半に3月高値に接近し5月には高値抜けしていくという期待が高まります。先週末には3月配当落ち分を埋め2万8000円台を回復してきました。日足、週足、月足揃って主要移動平均線を上回ってきており、4月相場も期待できそうです。

日々勇太朗

ゼネテクはストップ高

運転手不足でFlexSimに脚光

ゼネテック（4492）がストップ高。岸田首相が24年に導入される時間外労働の規制で懸念される運転手不足に対して、輸送・物流関連の関係閣僚会議を開催し、緊急対策を取りまとめると28日、述べた。同社のFlexSimは工場・物流倉庫の生産能力を3Dモデル・数値・グラフで可視化。コスト削減や省人化などの課題を解決し、生産性向上に貢献するシミュレーションソフトウェアで運転手不足の問題分析への活用が期待された。

元旦期末一括配当倍増

元旦ビューティ工業（5935）がストップ高で最高値更新。23年3月期の期末一括配当を75円から150円（前期75円）へ大幅に引き上げた。業績動向などを総合的に勘案し、さらなる株主還元の充実を図るとしている。

公開価格55%上回る

アクシスコンサルティングの初値

アクシスC（9344）が東証グロース市場に新規上場、公開価格1950円を55・4%上回る3030円で初値が生まれた。ハイエンド領域の人材紹介とスキルシェアの複合サービスを提供する。

公開価格46%上回る

モンスターラボの初値

モンスターラボホールディングス（5255）が東証グロース市場に新規上場、公開価格720円を45・8%上回る1050円で初値をつけた。デジタルコンサルティングとプロダクトなどを行う。

公開価格25%上回る

Arentの初値

Arent（5254）が東証グロース市場に新規上場、公開価格1440円を25・1%上回る1802円で初値が生まれた。建設業界を中心にDXコンサルティング、システム開発、システム販売などを行う。

スターティアは上方修正

29日、**スターティアホールディングス**（3393）が急反発。23年3月期の業績予想について、連結営業利益で15億1000万円から17億円（同4・9倍）へ上方修正、期末配当を35円から36円（前年同期10円）へ引き上げた。

公開価格22円上回る

モンスタラボの初値

住信SBIネット銀行（7163）が東証スタンダード市場に新規上場、公開価格1200円に対して1222円で初値が生まれた。SBIホールディングスと三井住友信託銀行折半出資のインターネット専業銀行。

公開価格と同値

AnyMindの初値

AnyMind Group（5027）が東証グロース市場に新規上場、公開価格1000円と同値で初値が生まれた。ブランド企業向けマーケティング支援、パブリッシャーとクリエイター向け収益化支援、D2C支援に関するプラットフォームとサービスを開発・提供する。

企業観察　大和ハウス工業（1925）

「ZEH」、「ZEB」の提案強化

カーボンニュートラルへ本格拡大へ

大和ハウス工業（1925）の23年3月期は、前半マンション好調で期を通じて集合住宅が底堅く、計画達成にめどをつけた。契約も4～2月トータルで前年同期比17%増と順調。ただ、資材価格や米住宅ローン金利は高止まり状態で、欧米の金融システム不安の影響が懸念されるなど事業環境には不透明感が増しており、各事業で需要分野を絞り込んだ受注活動を進める一方、中期計画に沿った基本戦略を徹底していく。

中計では収益モデルの進化と経営効率の向上、経営基盤の強化により、持続的成長モデル確立を目指す。すでに海外事業の成長戦略は軌道に乗りつつあり、営業キャッシュフローをベースにした資金配分やグループ集中調達などにも取り組んでいるが、取扱いではネットゼロエネルギー住宅の「ZEH」とネットゼロエネルギービル「ZEB」の提案を強めている。

住宅、商業施設を含め、全新築建築物に太陽光パネルを設置して、デジタルによるCO2排出量見える化やサプライヤーとの協業も推進。カーボンニュートラルに向け政府方針の30年度46%削減を大きく上回る70%削減を目指し、本格的に取扱いを拡大していく。

企業レター

小林社長手際よい議事進行

上場後3回目の株主総会を開催

DmMix

ダイレクトマーケティングミックス（7354）が3月24日にANAクラウンプラザホテル大阪（大阪市北区）で第6期定時株主総会を開催した。

2020年10月に東証1部市場（現・プライム市場）に上場してから今年は3回目の株主総会となった。招集通知はフルカラーでより見やすくなる工夫がなされているうえ、議長を務める小林祐樹社長も通る声で議事を進めるなど、全体として聞き取りやすく、手際よい議事進行が目を引いた。また、シナリオを読む際には時折下を向いて目を通す程度で終始、株主席を見て報告、わかりやすい説明を行っており、入念な準備を垣間見ることができた。他方、質問を受ける際には再三にわたり質問を促すなど、株主総会が株主との対話の場であることを十分意識しているように感じた。

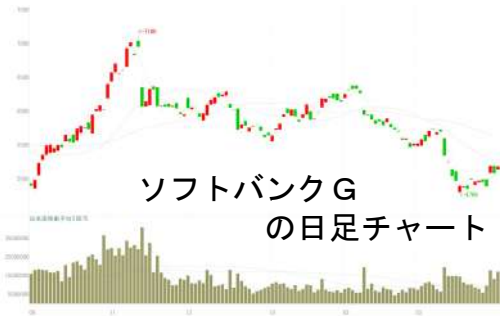
議事を進行する小林祐樹社長

23年12月期は売上収益360億円（前期比3・8%増）、営業利益58億円（同0・5%増）と増収増益を計画し、配当も18円への増配意向にある。

通信からの業務受託が堅調で、公共セクターやWebなど幅広い分野で新規開拓が進んでおり、オンサイト事業では近年の労働環境の変化により営業人材の派遣ニーズは底堅く推移している。今後は、新規事業にも意欲を見せており、DXの活用に加えて、優秀な人材の育成・確保にも取り組み、顧客ニーズに対応した需要増大を図っていくとしており、更なる飛躍が期待できよう。

ソフトバンクG急反発

アリババADRが大幅上昇



ソフトバンクGの日足チャート

ソフトバンクグループ（9984）が急反発。米国市場でアリババのADRが14%高と大幅に上昇したことで投資収益拡大が期待された。アリババは持ち株会社制に移行、ネット通販やクラウド、物流など6つの事業グループに分割・再編すると発表、事業会社ごとの資金調達やIPOなども視野に入れており、組織再編による事業運営の円滑化や中国政府の統制圧力緩和なども期待された。

メドレクス承認再申請

メドレックス（4586）がストップ高。**デ・ウエスタン・セラピテクス研究所**（4577）と米国で共同開発する帯状疱疹後の神経疼痛治療薬MRX-5LBTについて、米食品医薬品局（FDA）に新薬承認申請書を再提出したと発表した。DWTIも反発。

マイクロ波は新技術

マイクロ波化学（9227）が急伸。マイクロ波加熱による省エネ・CO2削減精製技術でベリリウム鉱石の溶解に成功したと発表、早期実用化が期待された。

公開価格63%上回る

ビズメイツの初値

ビズメイツ（9345）が東証グロース市場に新規上場、公開価格3250円を63・4%上回る5310円で初値が生まれた。同社はオンラインビジネス英会話「Bizmates」のランゲージソリューション事業と外国人ITエンジニアにフォーカスした人材紹介サービスのタレントソリューション事業を行う。

公開価格51%上回る

ノバシステムの初値

ノバシステム（5257）が東証スタンダード市場に新規上場、公開価格1700円を50・9%上回る2565円で初値が生まれた。金融・保険業界向けを中心にシステムインテグレーション事業、クラウドサービスの提供を行う。

高野恭壽の株式情報 これでどや!!

株式市場新聞の名物コーナーが復活！

4月は内需を狙う

先週の東京市場はハイテク系などが米国株高を好感して買われて日経平均を下支えて権利分をカバーしました。米国株式市場は金融危機の和らぎから、ハイテク系がそれを好感して上昇しました。しかし、ハイテク系よりも新年度は内需系の物色が強くなっていくと考えていますので、配当権利落ち場面は好買い場になったと考えています。

日経平均は全般的に上値を追う可能性が高く、２つ目のマドの２万８１４８円を埋める動きがみられるものと思っています。内需系は電鉄、空運、はじめ小売り、食品、医薬品、ゼネコンなどが物色対象になっていくとみています。

当欄の一貫推奨のＪＲ西日本（９０２１）ですが、５５４７円の戻り高値を回復する可能性が高く、引き続き注目です。すでに、再三、紹介していますが、２３年３月期は通期予想を上回ることが確実で、２４年３月期も値上げとインバウンド需要で増益を見込めることを考えますと、６０００円台の高値更新まで期待してもいいとみています。

小売り系では**７＆ｉホールデング**（３３８２）に注目です。中期計画で明るい見通しを発表したのですが、閉鎖店舗によって業績悪が一時的に見込まれ大きく反落していましたが、その懸念を株安によって消化したことで見直されてきました。医薬品では**エーザイ**（４５２３）の復活を期待しています。**第一三共**（４５６８）が上値を追いはじめており、それに続き注目されていくと考えています。穴株として**三井Ｅ＆Ｓ**（７００３）に注目。

高野恭壽（たかのやすひさ）**氏**　株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家へ。講演会のほかラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめＴＶ、ラジオに出演。「株式投資30カ条」など著書も。

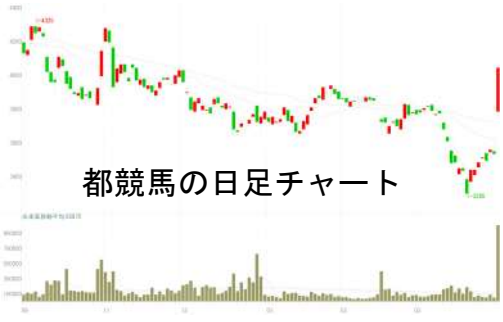
公式ホームページ

https://marketpress.jp/kabu-takano/

上値を追いマド埋めへ

都競馬上昇率トップ

オアシス大株主浮上で思惑



週末３１日、**東京都競馬**（９６７２）が急伸、東証プライム市場上昇率トップに立った。３月３０日受付分の大量保有報告書（５％ルール）でオアシスマネジメントが大株主に浮上したことで一段の買い増しなど需給面での思惑買いを呼んだ。オアシスマネジメントはイスラエルで従軍歴を持つセス・フィッシャー氏によって２００２年に設立された資産運用会社。

くろ工一転最終黒字

くろがね工作所（７９９７）がストップ高。２３年１１月期の連結最終益を６０００万円の赤字から一転、１２億１０００万円の黒字（前期５億６６００万円の赤字）に上方修正した。固定資産売却益１６億１０００万円を上する。

JCRファ大幅下方修正

ＪＣＲファーマ（４５５２）が大幅続落。２３年３月期の業績予想の修正を発表、連結売上高で４５０億円から３４２億円（前期比３３・０％減）へ、営業利益で１４５億円から５０億円（同７４・９％減）へ大幅に下方修正した。ライソゾーム病開発品目のＪＲ－１７１、ＪＲ－４４１、ＪＲ－４４６などのライセンス契約が期中に成約せず、契約金収入と製品売上の計画未達によるもの。

公開価格31％上回る

ココルポートの初値

ココルポート（９３４６）が東証グロース市場に新規上場、公開価格３１５０円を３１・３％上回る４１３５円で初値が生まれた。障害者総合支援法に基づく障がい福祉サービス事業を手掛ける。

公開価格34円上回る

エコムの初値

エコム（６２２５）が名証メイン市場に新規上場、公開価格１６８０円から３４円高い１７１４円で初値をつけた。工業炉開発・設計・製造と保守点検を行う。

チャートから読む騰落銘柄

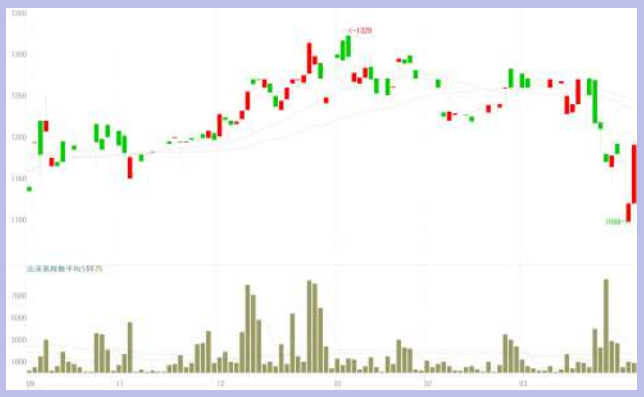
河合楽器（7952）

年初の２５００円台を底に一貫した上昇基調で、３月３１日には一時３０６５円まで買われる。海外で高級グランドピアノ好調で、中長期的には２１年７月に付けた高値４５７５円を目指す動きに期待。

Abalance（3856）

大勢上昇トレンドのなか、５日線を下値支持に鋭角的な上昇続く。２３年６月期９割増収、営業益４．１倍予想と飛躍期を迎え、中期目標も再上方修正、還元強化へ期待も強い。５ケタ相場へ噴き値局面近い。

日ハウズイング（4781）



１月６日に１３２９円の高値を付けて以降は２５００円中心に揉み合いが続いたが、３月３０日には１０９８円まで値崩す。一旦は下げ渋る動き見せるも営繕工事苦戦による業績悪懸念強くもう一段の下値も。

大成建設（1801）

札幌市で建設中の大型商業ビルで精度不良が発覚。マド空け急落のあと全般地合い改善も戻り鈍い。解体全面建て替えで収益への影響が懸念され、押し目買いに信用買い残の整理も進まず一段安を警戒。

※チャートは日足

星野三太郎の 株街往来

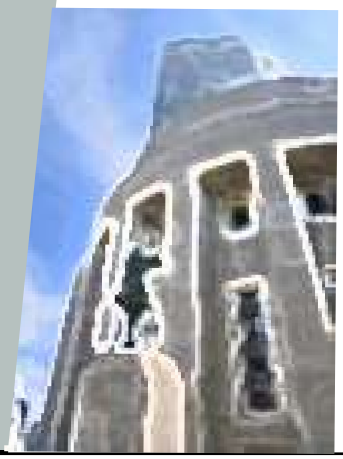
～１万円でどれだけ増やせる？～

編集局へのＬＩＮＥの問い合わせメールで「１万円の資金でどれだけ資産を増やせますか？」という質問を頂いた。

仮に１００株で買える銘柄の株価が１００円だったら１万円で購入できるなと考えながら調べて見ると、ネット証券ではミニ株やＳ株という名称で１株から購入できるサービスが充実していることを知って驚いてしまった。高額で買えない任天堂でも５０００円程度で買えるのだから、１０００円以下の銘柄を金融やハイテクなど業種を分けて数銘柄で運用するのもアリだろう。

筆者は大学生時代にバイトで貯めた資金で日立造船株を１０００株買ったのが株式投資の始まりだが、今のような少額投資が可能だったらもっと勉強していただろうと思う。机上の空論よりは投資を実践して学習するほうが身につくのが早い。

「１万円でも工夫によっては無限大に増やせる可能性がある」との返事をしたが、１００円でも１０００円でも増やせて行けば、元金が何百倍、何千倍になるのも不可能ではない。新社会人がデビューする４月に株式投資デビューする社会人も増えてほしい。



New product

パナソニック　コンパクトに機能凝縮

アルカリイオン整水器「TK-AS31」

ＴＫ－ＡＳ３１

パナソニック ホールディングス（６７５２）傘下のパナソニックは、コンパクト設計にこだわったアルカリイオン整水器「ＴＫ－ＡＳ３１」を５月１日に発売する。

これまで限られたキッチンスペースで設置を断念していた人でも検討できるように、コンパクトなサイズに機能を凝縮。またキッチンのインテリアにもなじむシンプルなデザインに仕上げている。コンパクトながら高性能カートリッジを搭載。カートリッジ内部の活性炭層と水の接触面積を増やして効率的に不純物をろ過する「クロスフロー方式」を採用することで、直結型浄水器の約３倍のろ過能力を実現し、１９物質を除去する。

キリンビバ　「プラズマ乳酸菌」を配合

プラズマスポーツとソルティライチプラス

キリンプラズマスポーツ

キリンホールディングス（２５０３）グループのキリンビバレッジは、独自素材「プラズマ乳酸菌」を配合した「健康な人の免疫機能の維持をサポート」する機能性表示食品「キリン プラズマスポーツ」を４月１８日から全国で発売。また、「キリン 世界のＫｉｔｃｈｅｎから ソルティライチ」に「プラズマ乳酸菌」を配合した「キリン 世界のＫｉｔｃｈｅｎから ソルティライチプラス」を５月１６日から期間限定で発売する。

「キリン プラズマスポーツ」は「プラズマ乳酸菌」１０００億個配合。、乾いた体にすっと浸みわたる、さわやかなシトラスミックス味。「キリン 世界のＫｉｔｃｈｅｎから ソルティライチプラス」も「プラズマ乳酸菌」１０００億個配合、甘さを控えてゴクゴク飲める味わい。

潮流

金融不安は過ぎ去る

シリコンバレーB破綻は個別事案

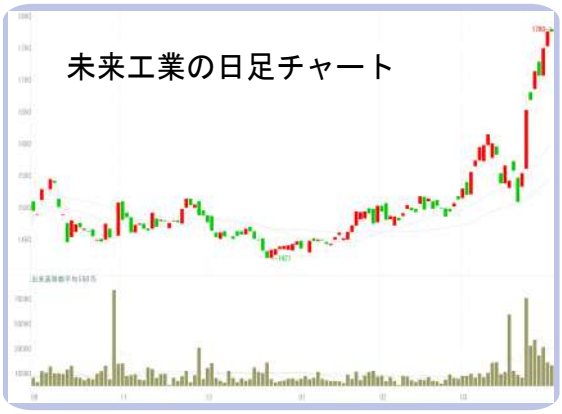
岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール
1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年にNHK番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では2022年1月の夕刊フジ主催の「株-1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

外国人投資家は３月第３週（１３～１７日）に日本株を現物・先物合計で２兆３７３０億円売り越した。記録をさかのぼれる２０１２年以降で最大となる。

欧米の金融不安でリスク回避姿勢が強まり、買い込んでいたバリュー株（割安株）や株価指数先物を一気に売却した。主要な売り手となったのが先物中心の売買を手掛ける短期勢だ。年初から日本株を買い持ちしていたマクロ系ヘッジファンドなどが、一気に売りに転じた。外国人投資家は３月第２週（６～１０日）まで９週連続で買い越し、累計の買越額は３兆８０００億円に上っていた。

海外勢が大きく売り越す中、相場を支えたのが個人投資家で、３月第３週の個人の現物・先物の合計買越額は１兆９４４億円と、１２年以来の最大の買い越しとなった。株価の下落局面で、個人が銀行などのバリュー株を中心に押し目買いに動いた。

ヘッジファンドが買いから売りに転換したきっかけは欧米の金融不安だ。３月１０日に米銀シリコンバレーバンク（ＳＶＢ）の破綻が明らかになり、続いてシグネチャー・バンクが破綻、さらにファースト・リパブリック・バンク（ＦＲＣ）も信用不安に巻き込まれ株価が急落した。



１５日にはスイス金融大手クレディ・スイスの株価も急落、４日後にはスイス金融大手のＵＢＳが同社を買収すると発表した。ＳＶＢは米東部ノースカロライナ州地盤の銀行持ち株会社、ファースト・シチズンズ・バンクシェアーズが買収することで合意した。

ＳＶＢ破綻の原因はＡＬＭ(資産・負債の総合管理）の失敗だ。クレディ・スイスは自己資本拡充のため株式とも債券とも区別のつきにくい複雑な仕組みのＡＴ１債を大量に発行しながらリスクビジネスに走り、経営が傾いた。ＳＶＢやクレディ・スイスのケースは個別要因であり、過去のような実体経済の大幅な悪化をベースにした不良債権の急増と自己資本の劣化に繋がった金融システム危機とは全く違う。

ＦＲＢ(米連邦準備理事会）で金融規制担当のバー副議長は３月２８日の上院銀行委員会の公聴会での証言でＳＶＢの破綻については個別事案であると発言している。

株式や債券、為替市場を見てもヘッジファンドのポジション整理も終わり、過度な金融不安は過ぎ去ったようだ。

潮流銘柄は**未来工業**（７９３１）、**信越化学**（４０６３）、**エフ・シー・シー**（７２９６）。

ポジション整理も終わる

配当分埋め強いが…

BOX相場の戻りに過ぎず

敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール

証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、２２５先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における２２５先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

先週の日経平均は前週末比約６５６円高と２週連続で上昇した。３月期決算ものの権利取りの動きに加え、欧米の金融システム不安が後退し売り方の買戻しが活発化した。

５月のＦＯＭＣで０・２５％の利上げされたとしても２０２３年末のターミナルレート予想に達することから、利上げ打ち止め感が高まり長期金利も落ち着いた動きとなった。世界的な金融システム不安の影響で銀行株の動きは鈍いが、半面売られ過ぎた半導体関連株が買い戻され日経平均の上昇を牽引した。

日経平均の配当落ちは約２５０円とされていたが、落ち後も配当分を埋める動きとなり相場の勢いは強い。チャート上で１３週移動平均線（２万７３０８円処）、２６週移動平均線（２万７３２２円処）を割らずに切り返したところに相場の強さを感じる。

日足でも２３日から前日の安値を割らず、５日線（２万７７４１円処）まで下がると買いが入ってきており、上昇志向の高いチャートとなっている。現在、５日移動平均線（２万７７４１円処）と２５日移動平均線（２万７６６３円処）のゴールデンクロスを形成、週足でも１３週移動平均線と５２週移動平均線がゴールデンクロスを形成、チャート上では先高期待は大きい。

上値メドとしては下落時に付けた最初の窓埋め（２万８５５８円８８銭）、抜けてくると戻り高値の２万８７３４円７９銭が視野に入ってこよう。騰落レシオは１２１・７％と再び過熱感が出始めているので、横ばい続くボリンジャーバンドの＋２σ（２万８６５３円処）処で一旦は売りが出てくる可能性は高い。

一方、下値としては先週意識されていた５日移動平均線（２万７７４１円処）、２５日移動平均線（２万７６６３円処があげられよう。前週の動きでは前日の安値を割らずに上昇しているので、そのリズムが崩れると一旦は調整すると思われる。

米ブルームバーグ通信の調べによると１月までの１２カ月で株価指数「ラッセル３０００」に属する企業の３割が損失を出したようである。これは１９７８年以降では２０００年代初頭のネットバブル崩壊時と２００８年のリーマンショックの２回しかない異常事態だそうだ。

米国の企業業績は間違いなく悪く、その影響はやはり日本にも響いてくる。４月中旬から発表される決算が注目だが、個人的にはこの相場も２万６０００円～２万９０００円のＢＯＸ相場の戻りとして捉えた方がよさそうだ。

今週は２万７８００円～２万８６００円のレンジを想定する。

（ハチロク）

米国の企業業績は悪い

SOX指数の日足チャート

日経225先物の日足チャート

記者の視点

相場見通し

2万8000円台固め

新年度入りで新規資金流入

3月最終週の東京市場は週末に向けて上げ足を早めて、3月31日には日経平均で2万8000円に乗せる動きとなった。SVB(シリコンバレーバンク)の破綻やクレディスイスの経営危機などに対して、欧米の金融当局が矢継ぎ早に対策を打ち出したことで一旦は収束に向かったようだ。

ニューヨーク市場ではAIを活用した新製品「Microsoft 365 Copilot」を発表したマイクロソフトを筆頭にハイテクが牽引し、ナスダック指数は今年2月に付けた12269・55ポイント以来の高値圏に進み、東京市場では**アドバンテスト**(6857)や**村田製作所**(6981)、**ソニーグループ**(6758)などが上昇、30日は権利配当落ちで下落しているが、これが実質的に上昇と仮定するなら、31日までで日経平均は5日続伸となる。

金融危機が沈静化したことで、今後の関心は再び米国の利上げ動向に関心が移っている。今週は4月3日に米3月ISM製造業指数、5日に米ADP雇用統計、米3月ISM非製造業景況指数、7日に米3月雇用統計の発表が控える。これらの内容次第で利上げの打ち止め時期の思惑が錯綜しそうだ。

一方、国内では1日に「こども家庭庁」設置、9日に植田和男氏が日銀総裁に就任し、統一地方選の投開票日を迎える。植田総裁就任後はイールドカーブコントロールの廃止が議論されるとみられるが、これが全般相場に影響するのはまだ先だろう。統一地方選の結果次第では衆院の解散総選挙の思惑が高まりそうで、岸田政権からは景気浮揚に向けたアナウンスが増える可能性がある。

国内では2月期企業の決算発表が本格化(**1面参照**)する。まずは新年度入りで新規資金が流入し、日経平均では2万8000円台固めの動きと見る。

今週のスケジュール

- ・3日　3月調査日銀短観
  1中国3月Caixin製造業PMI
  米3月ISM製造業景況指数
- ・4日　3月マネタリーベース
  10年国債入札
  米2月JOLT求人件数
- ・5日　1月マネーストック
  米3月ADP雇用統計
  米2月貿易収支
  米3月ISM非製造業景況指数
- ・7日　米3月雇用統計
- ・9日　植田和男氏が日銀総裁に就任
  統一地方選挙投開票(知事、政令市長など)
- ・10日　3月景気ウォッチャー調査
- ・11日　5年国債入札
  中国3月消費者物価、中国3月生産者物価
- ・12日　3月国内企業物価指数、2月機械受注
  米3月消費者物価
  3月21・22日開催のFOMC議事録
  G20財務相・中央銀行総裁会議(～13日ワシントン)
  米1月生産者物価
- ・13日　3月マネーストック
  中国3月貿易収支
  米3月生産者物価
- ・14日　米3月小売売上高
  米3月鉱工業生産・設備稼働率
  米4月ミシガン大学消費者マインド指数

編集後記

自宅近くの川沿いの桜並木が満開になった。植樹されてから30年以上を経て幹は太くなり枝も張って、いよいよ鮮やかでスケールも大きくなった。これからも毎年、満開の風景が見れたらと思うが、接木で増やすソメイヨシノの寿命は短く一般的に60年と言われる。ただ、日本一と名高い青森県弘前城ではりんご栽培のノウハウを取り入れた管理法により、寿命を倍以上に伸ばしている。樹齢100年を超える古木が300本以上もあるという。

欧米金融機関破綻は管理不行き届きだったのだろう。

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。